

JAMトピックス

人材を資源ではなく資本と捉える JAMものづくりシンポジウムを開催



パネルディスカッション
左からコーディネーター・安河内会長、パネラー・今西
亜裕美氏、岩本隆氏、宇野禎晃氏、村上陽子氏

JAMは「人材育成と人への投資～『人的資本経営』で魅力あるものづくりを考える～」と題し、「2023 ものづくりシンポジウム」を4月15日に東京・港区「友愛会館」で開いた。

基調講演では慶應義塾大学大学院・特任教授の岩本隆氏から「人的資本経営*」人材を資源ではなく資本と捉える考え方（日本でも以前から「企業は人なり」と言われている）を聴き、厚生労働省・人材開発政策担当参事官室の宇野禎晃参事官からは、「人材開発施策の現状と今後の方向性」についての講演を受けた。

事例報告では、ダイキン工業株式会社・人事本部今西亜裕美氏（ダイバーシティ推進グループ長）からは「ダイキン工業の『人を基軸におく経営』をベースとした人材育成」として「個々人が持つ才能は誰一人として同じではない」「年齢・性別・国籍・障害の有無等にかかわらず、誰もが強みを最低一つは

持っている」「個々人の様々な才能をうまく組織し、総合力とする」「一人ひとりが違いを認め合い、協調し、持てる力を結集することが重要」の4点のダイバーシティマネジメントが紹介された。

パネルディスカッション 魅力あるものづくり産業へ

第2部は安河内JAM会長がコーディネーターパネリストで、上記3人と連合本部副事務局長・村上陽子氏がパネラーとしてパネルディスカッションを行った。ものづくり産業を魅力あるものとしていくためには人が成長できる仕組みが重要である。「人的資本」をテーマに働く人が評価される仕組みとなるためにどうしていくことが良いかなどを議論した。

参加者は対面・Webあわせて約150人。

*人的資本経営=Human Capital Management=HCM



村田享子参議院議員は国会で、ものづくりについて質問し、西村経産相から答弁を引き出したことなどをあいさした

会場
対面
参加者
約100人